

技術者育成の研修活動

北陸支部



現地での研修活動

北陸支部では、応用地質に関わる技術者育成を目的に、ベテランの研究者・技術者を講師として、現地研修会を開催しています。その一例を次に紹介します。

1. 角田山・弥彦山周辺の地形地質の見方現地研修

新潟市の西部に位置する角田山・弥彦山は、北北東-南南西に伸びた山地を示し、信濃川が形成した新潟平野の存在をもたらした構造の一部と言える。古来洪水に悩まされてきたのも、この山稜の存在であり、大河津分水や導水路トンネル等、この山稜を切る水路開発もそのためである。当該地はシーサイドライン、スカイラインの開通に伴い岩盤崩落、地すべり等解明されなければならない問題の多い地域でもある。

北陸支部では、第1回の現地見学会を当地で開催した。この地を選んだ理由は、全国的に展開された「岩盤崩落危険度調査等」のトレーニング、「応用地質学」としての学生の実習の場となるからである。

研修用に作成したテキストの一部

GISによる地形解析の紹介

角田海岸の水中溶岩ドーム (ラバーロープ)

角田山周辺の地質図 (長瀬ほか, 2002)

角田海岸の急崖に発達する崩壊の危険性がある節理

研修用に作成したテキストの一部

角田・弥彦山地地域の地すべり地形と指定地の分布

弥彦山スカイライン周辺の大規模地すべり地形

弥彦山周辺の大規模地すべり地形の分布



水冷破碎溶岩の見方を教わる若手技術者たち

2. 椎谷岬の若手地質技術者対象の現地研修

若手技術者が空中写真を判読し、露頭を観察し、ルートマップ・地質図を作成する機会が減少している。この機会にもう一度技術者育成を目的にして研修会を実施した。

研修場所は、昨年中越沖地震で被災した椎谷岬の海岸周辺とした。地震により変形した斜面で初生地すべりに至る形成過程が観察され、中堅技術者にも勉強になる研修会となった。

研修箇所の地すべり分布図 (野崎(2008)研修用テキスト)

地域の地質断面図(研修用テキスト)

研修での詳しいボーリングコア観察からスリッペンサイドを見つける



椎谷岬灯台において参加者一同



全員で見本となる地質平面図を見る



現地で空中写真判読の練習



末端部が崩壊した地すべり土塊を直接観察